

説 教

Open Church 礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2023年3月19日（日）

主 題：「変わらないお方と歩む人生」

—幸 福—

聖 書：ヘブル人への手紙13章8節

はじめに

- ・おはようございます。
- ・私たちが生活する社会は、急速な速度で変化しています。
北浜チャーチは今年6月、創立25周年を迎えようとしていますが、25年前の社会はどんな北浜であったでしょうか。
- ・北浜は大阪のビジネス街の中心地でした。それは近くに船場という大阪を代表する商人の町があり、道修町という薬問屋の店が多くあり、それに関連する店が集まる「商いの町」でした。そして、北浜1丁目の角地には大阪証券取引所 (Osaka Stock Exchange) 建っています。
- ・北浜チャーチは、その大阪証券取引所を前にした建物 (VIP 関西センター) の内にあります。その北浜で、北浜チャーチがスタートしたのが25年前でした。当時、北浜にある小学校は1クラス程度で、このまま進めば、小学校はきっと縮小するだろうと言われていました。ところが、今では子どもたちが多く通う小学校となり、2クラス、3クラスにもなり、校舎の増築が行われました。毎朝、子どもたちの元気な声が聞こえてきます。
- ・それはビジネス街から居住区へと変化してきたからです。近くにはタワーマンション (43階建) が建ち、朝には子どもたちを見送る母親たちが交通整理をする姿が見られます。大きな変化です。
- ・かつて北浜の平日は、スーツ姿の男性ビジネスマンが多く見られ、週末には人通りがほとんどありませんでした。しかし今ではマンションとホテルが並び、ビジネス街が居住区と変化してきました。
- ・「変化」、それは時間の流れとともに起こります。そもそも北浜とは、「北」の「浜」で、ここに土佐堀川を上ってくる商いの船が寄り、荷物を出し入れした「浜」であったと聞いています。その頃から考えれば、現在の北浜は更に大きく変化していますね。
- ・社会がこのように変化するように、世の中は変化しています。人間も有限です。時間の長さの違いはありますが、人は生まれ、やがてこの世を去っていきます。

有限であるからです。聖書は次のように語っています。

- ・イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。

ヘブル13：8

イエス・キリストは、弟子たちに次のように言われました。

14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。ヨハネ

- ・不思議なことを語られたイエス・キリストは、どんなお方でしょうか。 3点

大切なポイント

1. わたしが道です

14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。ヨハネ

1) 人生の道

- ・人は生きる道を求めています。どう生きるべきか道を探しています。政治の世界、ビジネスの世界、教育の世界、スポーツの世界、家庭など、

➡ これだ！ という道はないかと求めています。

あなたは、いかがでしょうか。

- ・新聞を読むたびに、社会のさまざまな問題に心を痛めます。ある方が、「今の時代の最もおきな脅威は、『寛容』である。」と言いました。寛容とは、「自分と意見が違う人にも尊敬の心を表すこと」です。
- ・しかし多元化時代となった今では、この寛容の定義も多様化してきました。多様性という道を受け入れないならば、個人の権利が無視されると言い、人権問題となります。
- ・「キリスト教も、仏教も、イスラム教も、ヒンズー教も、皆それぞれ良いのだから、本人が真面目に信じれば良い。」と言います。しかし、真面目に信じたからと言って、偽者が正し（真理）になることはありません。それは富士山の頂上に至る道は色々ありますが、頂上につけば皆同じである、という考えに似ています。
- ・イエスは言われました。ヨハネ14章
14:6 わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。ヨハネ
このみことばは「寛容」が徳と考えられる時代に、受け入れがたいものです。しかし、真理は単数であり、そこには排他性があることを知ってください。

- 例えば、私たちの父親、母親は一人です。どれだけ親切で、優しく、寛容な人で親代わりとなるような人であったとして、産みの親はただ一人です。それは正しい（真理）ことです。それゆえ、他のものを容認できません。

2) イエスは先導くださる

- しばらく前から聞こえる話しですが、熟年離婚が増えているそうです。その理由は「もう我慢しなら生きるのは嫌だ。」、「これ以上一緒にいたくない」というものがほとんどだそうです。
- ロシアの文豪トルストイは「誰もが世界を変えたいと思うが、誰も自分を変えようとは思わない。」と言いました。その通りです。人間は自分の意地や性格、主張を変えようとは思いません。そこで、憎しみ、怒り、ストレスが積もれば爆発し、苦しみ増す。そして苦しい人生を送ることになります。
- 聖書は人の心に凶ることは、いつも悪に傾く、と言っています。

創世記 6 章

6:5 主は、地上に人の悪が増大し、その心に凶ることが御名、いつも悪に傾くのをご覧になった。

- 人の悪が増大してきたとき、人は神なしでも生きていけると考えました。しかし、それが悪なのです。心に神を迎え入れようとしないことが、悪です。その結果、人の心は、不義、悪、貪欲、悪意、妬み、殺意、争い、欺き、悪巧み等に満ちています。人がどれほど学び、努力を積んでも、この世の方法では墮落した人間の心を正すことはできません。
- それで神はこの世にイエス・キリストを遣わしてくださいました。イエスを私の救い主として信じ、心に迎え入れることによって、愚かだった心が新しくされます。神は私たちの弱さや愚かさをご存知です。失敗や罪が多くても、救い主イエス・キリストと共に歩むならば、イエスが力を与え先導してくださいませ。
- イエス・キリストは言われました。
14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。 ヨハネ
- イエス・キリストはどんなお方でしょうか。

2. わたしが真理です

14:6 わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。 ヨハネ

1) 真理である神

- 聖書が語る神とは、人が作った宗教の神々ではありません。天と地、その中の全てを造られたお方です。では、その神はどこにおられるのでしょうか。
- 日本人の神観では、神には形があり、目に見えるものを考えます。「神はどこにいますか」という問いを日本人に向けると、多くの方々は「神は神社の社の中にいる」と答えます。それは形があり、目に見える（確認できる）神であるからです。しかし、それは本当（真理）の神でしょうか。
- 同じ質問を聖書の民ユダヤ人に向けると、「神は歴史の中におられる」と言います。歴史の中におられる神は、目に見える神ではありません。しかし、歴史の中で実在され、ご自身の存在をお示しくくださるお方です。

2) 人生に介入される神

- 世界を造られ、今も支配される神は。単に時間だけではありません。私たちの人生にも介入されるお方です。神はあなたを良く知っておられ、最善の道を知っておられます。聖書には次のようなストーリーが書かれています。
 - ある時、一人の金持ちの青年がイエスの元にきて尋ねました。マタイ 19 章
 19:16 すると見よ、一人の人がイエスに近づいて来て言った。「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをすればよいのでしょうか。」
 19:17 イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方はおひとりです。いのちに入りたいと思うなら戒めを守りなさい。」
 19:18 彼は「どの戒めですか」と言った。そこでイエスは答えられた。「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽りの証言をしてはならない。
 19:19 父と母を敬え。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」
 19:20 この青年はイエスに言った。「私はそれらすべてを守ってきました。何がまだ欠けているのでしょうか。」
 19:21 イエスは彼に言われた。「完全になりたいのなら、帰って、あなたの財産を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。そのうえで、わたしに従って来なさい。」
 19:22 青年はこのことばを聞くと、悲しみながら立ち去った。多くの財産を持っていたからである。
- (1) この青年は若くして成功した人でした。きっと立派な青年実業家であつたでしょう。その上、道徳的にも立派な人でした（戒めを小さい時から守っていた。） 世の中の視点から見れば、申し分のない人でした。
- しかし彼はイエスのもとにきて正直に、尋ねました。

19:16 「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをすればよいのでしょうか。」

彼は、永遠のいのちが欲しかったのでした。ユダヤ人たちは、命は地上で終わるのではなく、死後の世界はあると信じていました。

(2) 彼には2つの問題がありました。

① 彼の視点は「行い」に向いていたこと

19:16 「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをすればよいのでしょうか。」

- ・今の時代も、「行い」を通して永遠のいのちを得ようとしている人はいます。貧しい、困難な状況下にある人々への慈善活動によって、つまり善い「行い」によって永遠のいのちを得ようと考えます。

② 「行い」の実践

- ・しかし「行い」に視点を向けた青年に対し、イエスは言われました。
19:21 イエスは彼に言われた。「完全になりたいのなら、帰って、あなたの財産を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。そのうえで、わたしに従って来なさい。」
- ・彼はそれができませんでした。なぜなら、手放せない程の財産があったからです。彼の心は手放せない財産に繋がれていました。ここに彼の問題がありました。皆さんは、いかがでしょうか。

3) 信仰を求める神

- ・皆さん。ここで大切なことがあります。人が救われるのは「行い」によるのではないことです。いや、「行い」によって救いに到達できないのです。聖書は、神を信じるといふ信仰（信頼）によって、人は救われると教えています。

ガラテヤ人への手紙2章

2:16 しかし、人は律法を行うことによってではなく、ただイエス・キリストを信じることによって義と認められると知って、私達もキリスト・イエスを信じました。律法を行うことによってではなく、キリストを信じることによって義と認められるためです。というのは、肉なる者はだれも、律法を行うことによって義と認められないからです

- ・皆さん。人は「行い」によって永遠のいのちを得られません。神を信じる信仰によるのです。

* イエス・キリストはどんなお方でしょうか。

3. わたしはいのちです

14:6 わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。 ヨハネ

- ・いのちは大切です。人命の大切さは、誰もが認めることです。

聖書: イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。

ヘブル13:8

『例 話』 こんな話しを耳にしました。

- ・ある日、父親が7歳になる息子に天国はどんな所だと思うか聞きました。息子は何かを思い出すような表情で話し始めました。「ぼくの考えだけど、ぼくたちが天国に着いたら、天使が大きな本を見ながらぼくたちの名前を呼ぶんだ。
- ・まず、パパの名前を呼ぶだろうな。そしたら、パパは『はい』と答えてね。その次に天使はママの名前を呼んで、ママも『はい』と答えるんだ。最後に、天使はぼくの名前を呼ぶんだ。そしたら、ぼくはジャンプするよ。ぼくは背が低くて、天使にはぼくが見えないかもしれないからね。それから、大きな声で叫ぶんだ。『ここだよ』って」
- ・それから数日後、この家族に悲劇が起きました。通学バスに乗ろうとしていた息子が車に引かれたのです。明け方、昏睡状態となった子どもの体がわずかに動いたので、家族みんなの視線が子どもに集中しました。
- ・子どもの唇が少しだけ動きました。それは「ここだよ」でした。その子が放った最後の一言でした。しかし、それは悲しみの中にいた家族に平安と希望をもたらしました。少年の声は明瞭で、はっきりと聞き取ることができました。
- ・神は私たちが愛してくださっています。そして素晴らしい作品としてお造りくださいました。 [エペソ人への手紙2章](#)
2:10 実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。
- ・しばらく前に、私は自分の角膜が破れる経験をしました。それは大変大きな痛みでした。しかし人間には再生能力があり、回復することができました。神は私たちに再生能力を与えて下さいました。人間の魂を救うこともできます。私たちが抱えるあらゆる問題も解決できるお方です。

ま と め

主 題：「変わらないお方と歩む人生」

—幸 福—

-今朝も、神はお語りくださいました。私たちは一度しかない人生、「変わらない方と歩む人生」を過ごしたいと願います。最後にイエス・キリストのことばをお読みしましょう。

14:6 わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。 ヨハネ

*God bless you